

岡山市埋蔵文化財発掘調査速報展2009

南方(後楽館)遺跡 岡山市北区南方

南方遺跡は、弥生時代中期の大集落で、中部瀬戸内地域の拠点集落の1つと考えられています。岡山市立中・高一貫校の体育館棟建設に伴う発掘調査の結果、弥生時代前期の集落の入り口の様子を具体的に示す貴重な例となる遺構が見つかりました。

その構造は、集落の境に幅約2mの溝があり、内側には柵列が並んでいます。柵列の一部は途切れており、その部分は溝が2重になっています。さらに橋の支柱と考えられる柱穴が、外側の溝底中央部にあり、ここに板を渡した簡単な橋があり、集落の入り口に使っていたと考えられます。

また柵列の内側では、岡山県下では最も古く、全国的にも最古級である井戸が検出されました。井戸には、入り口の方向にエプロン状の降り口がついており、入り口と井戸は一体のものであったと考えられます。集落に入る人や出る人が、祭祀的な行為をおこなう際に使用した井戸であったことが推測されます。

南方(支援センター)遺跡 岡山市北区南方

南方遺跡は、旭川右岸平野に形成された微高地上に位置する弥生時代中期を中心とする大規模な集落遺跡で、出土土器は、瀬戸内海東部地域での弥生時代中期の標準資料とされています。

今回の調査は、子育て支援センター建設事業に伴って行ったもので、調査区は元の国立病院の南側、道路をはさんだ対面に位置します。隣接する元岡山病院と同様に、弥生時代中期を中心とする溝や柱穴などの遺構が確認され、壺・甕・高坏などの土器類、石鏃・石斧・石包丁・石錘や未製品の環状石斧などの石器類、柱材を転用したと思われる木製ハシゴなどの遺物が出土しました。

本調査地点は、調査区中央部で微高地と低地を区画するように各時期の溝が検出されていることから、南方遺跡の集落域の南端部に位置すると考えられます。

彦崎貝塚 岡山市南区灘崎町彦崎

遺跡の範囲を確認するために調査しました。調査の結果、縄文時代の堅穴住居などはみつからず、今回調査した範囲まで遺跡が拡がらないことを確認しました。

調査を進めていくと、下層に湧水層があることがわかりました。この湧水は、かつて河道があった痕跡と推定されます。この河道中から、室町時代～縄文時代の遺物が出土しました。遺物は、土師器碗、土鍋、須恵質土器の他、縄文土器、石器、動物の骨などが挙げられます。

これらの遺物から、彦崎貝塚の周辺には、縄文時代以降も継続して人間の活動があったことがわかりました。

岡山城本丸下の段 岡山市北区丸の内

2006年度の確認調査で見つかった遺構の広がりや残存状況を確認するため調査を行いました。元禄13(1700)年に作成された『御城内御絵図』によると、今回の調査範囲からは鉄砲蔵と推測される「蔵」が2棟と「突栗櫓の階段」や厠跡などが見つかる予想されました。

調査の結果、『御城内御絵図』に記されている建物の基礎および突栗櫓の階段が当初の想定通り見つかりました。これらの遺構は幕末まで利用されていたと考えられます。また、戦国時代末～江戸時代初期に存在した可能性のある礎石跡を一部確認しました。元禄13年に作成された絵図よりも古い時期に存在した礎石跡の出土は今回が初めてであり、岡山城の変遷を知る上で重要な発見です。

出土遺物は江戸時代の瓦・陶磁器などが多数出土しました。中でも、火縄銃の弾丸や蔵や櫓に使われた鬼瓦などが注目されます。最も大きい弾丸は鉄製で重量が522gもあります。

湊茶臼山古墳 岡山市中区湊

湊茶臼山古墳は操山丘陵南部の山頂に立地する大型の前方後円墳です。これまで古墳の形やわずかに採集されている埴輪片から、墳長120～150m、4世紀後半頃の築造ではないかといわれてきましたが、実態はよくわかっていませんでした。このたび、この古墳の状況を確認し、史跡として保存を図っていかうと、発掘調査を実施することとなりました。

今回の調査で、古墳の大きさが墳長約120mであることがわかりました。墳丘には葺石はなく、前方部の北側には壇状遺構(島状遺構)がありそうです。また、前方部側の墳丘の外とみられる場所に葺石のような施設が見つかりました。造り出しなどの古墳に付随する施設が存在する可能性があります。

出土した埴輪には円筒埴輪と朝顔形埴輪があります。作る際に横方向に板で形を整えている特徴などから、4世紀末～5世紀初頭頃のものと思われます。

大供本町遺跡 岡山市北区大供本町

大供本町遺跡は旭川下流域西岸の沖積地に位置する古代から近世にかけての遺跡です。遺跡の東側一帯は摂関家藤原氏の荘園・鹿田庄に比定されており、この遺跡でもこれまでの調査で鹿田庄の地割りと一致する方向性をもった溝群が検出されており、その関連が注目されます。

今回の調査は100mほど離れたそれぞれ100㎡ほどの範囲二カ所です。ⅩⅡ区では江戸後期のゴミ穴、野壺状の土坑、溝などを検出しましたが、それ以前に遡る遺構等は検出できませんでした。ⅩⅢ区では中世から江戸時代前期の東西方向、南北方向の溝や多数の柱穴群を検出しました。わずか200㎡程度の調査範囲であることもあり遺跡の性格や全体像を知ることはかたがたありませんでしたが、遺跡の範囲や変遷を考える手がかりが得られました。

